

平成17年5月19日

## 「ITTF 総会で決定されたサーブルールの変更について」

国際卓球連盟総会で決定されたサーブルールの変更事項は次の通りである。

ボールが手の平から離れたら、すぐにフリーハンドとその腕（フリーアーム）を、ボールとネットとの空間の外に出さなければならない。

### 説明と今後への対応

1. 上記アンダーライン部分は、現状では、「サーバーの体とネットの空間」となっているので、この変更により、サーバーの出したボールの後方であれば、体の前に手（フリーハンド）・腕（フリーアーム）が残されていても構わなくなる。
2. これにより、サーバーの出すボールが常にレシーバーに見えるという基本ルールが生かされたまま、サーブを出した後、サーバーが手や腕の置く場所をより柔軟に決めることができることになる。（選手、審判双方にとり合理的で、メリットのある変更である。）
3. 本会のルール（日本卓球ルール・平成16年度版）では、正規のサーブの1.6.4の波線部分の変更となる。
4. 本会の変更ルールは、国際卓球連盟と同様、平成17年9月1日を予定している。
5. 正式には、6月18日開催の本会理事会で決定し、通知する。
6. 国際卓球連盟では、変更ルールの正式な文章化を図っており、その入手が出来次第、本会ルールブックの変更に結びつける。

以上

（本文責任者：上記総会出席 専務理事 木村 興治）